

トンパタロットの発見

浅葉 克己

あさば かつみ / 1940年神奈川県生まれ。アートディレクター。桑沢デザイン研究所、ライトパブリシティを経て、1975年浅葉克己デザイン室を設立。サントリー、西武百貨店、ミサワホームなど数々の広告を手がける。日宣美特選、日本宣伝賞、東京ADC賞グランプリ、紫綬褒章など多数。東京ADC委員、東京TDC理事長、AGI(国際グラフィック連盟)会員、東京造形大学・京都精華大学客員教授。中国の象形文字「トンパ文字」に造詣が深い。卓球六段。

トンパ文字は奥が深い。これまでに中国雲南省麗江に五回ほど調査の旅に行つて来たが、行くたびに新発見があり面白い。トンパ文字とは、麗江で今でも使われ、生きている象形文字のこと。二〇〇一年の第四回調査隊に女性の占師真矢茅子さんに同行していただいた。東巴文化研究所を中心に麗江の街をウロツクののだが、さすが占師、茅子さんがトンパの札を研究員の王さんの手もとから探し出してくれた。トンパは日常的には占師や名付け親だったりするので、引く札はもっている。本来は三三枚ある札を二九枚発見し、「コピーをいただいた。そして、「トンパタロット」と名前までつけてしまった。ホテルに帰り半紙に細筆で書いてみたら、いい感じなのだ。これを出版したいと思い、出版社も決まり、いざという段階で編集者が突然変死。そのため七年間も目の目を見ずに眠っている。

カード1は「日昇」。「太陽が山の頂を照らすように、あなたの人生にも幸運が訪れる」とあり、全体運と恋愛運、金運と続く。カード2は「神樹ハイパタ」。天界の神山にそびえる大樹・ハイパタは人生の実りをあなたに与える」。カード3は「赤虎」。「山を登る赤い虎。あなたの運氣も虎の歩みとともに上り坂」。だがいいいカードばかりではない。カード24「木を切る鬼」は天界の黒毒鬼が神樹を切り倒している。「災厄の予感があったをとりまく」。日本の神社のおみくじも好きだがトンパタロットは数倍も面白い。

東京ミッドタウンに安藤忠雄さんの設計でオープンした21・21デザインサイト(企画運営は三宅一宅一さんの指名を受け、浅葉克己ディレクションの展覧会を開く。テーマは、「祈りの痕跡」。誰が最初に痕をつけたのか。僕の頭のなかは、いつもこの疑問から離れることがない。最初の文字たちの誕生である。五〇〇〇年前にシュメール人が粘土板に楔形の文字を記した。その瞬間に考えや感情や人間の情熱や才能、芸術や科学は永遠の命をもった。

「書く」という事ほど人類に大きな影響を与えた発明はないと思う。地球文字探険家としては、21・21の空間にこの痕跡を集め、文字でこの館を埋めつくしてみたい。トンパタロットも出展してみたいと思つている。



目次

APRIL 2008
月刊みんぱく

4

01 エッセイ 世界へ世界から
トンパタロットの発見
浅葉 克己

02 みんなくインタビュー
開館30周年、
そしてこれから(1)
松園 万亀雄
中原 栄作

08 モノ・グラフ ついれん
中国漢族の対聯
韓 敏

10 地球ミュージアム紀行
中国広西の「生態博物館」
塚田 誠之

11 表紙モノ語り ほろ
ペー族の「焙じ茶瓶」
横山 廣子

12 みんなくインフォメーション

14 万国津々浦々
パリの春節
山中 由里子

15 時論・新論・理想論
核と戦った
バラオの女性伝統首長
三田 牧

16 外国人として生きる
オレの歌
北山 夏季

18 歳時世相篇
①入社式
変わりゆく日本企業の風物詩
中牧 弘允

20 生きもの博物誌
イノシシと暮らすシマ
大西 秀之

22 フィールドで考える
呪術が信じられている？
白川 千尋

24 みんなく ウィークエンド・サロン
研究者と話そう
次号予告・編集後記